

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
380	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
<b>題名 (原題/訳)</b>	
<p>A randomized double-blind pilot trial of gabapentin versus placebo to treat alcohol dependence and comorbid insomnia.</p> <p>アルコール依存症と合併症としての不眠症の治療に関するガバペンチン対プラセボ、無作為化二重盲検試験研究</p>	
<b>執筆者</b>	
Brower KJ, Myra Kim H, Strobbe S, Karam-Hage MA, Consens F, Zucker RA.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Alcohol Clin Exp Res. 32(8): 1429-1438 (2008)	
<b>キーワード</b>	
アルコール依存症、ガバペンチン、臨床試験研究、不眠症	
<b>要 旨</b>	
<p><b>背景：</b> 不眠症や他の睡眠障害はアルコール依存症患者では珍しくなく、長く続く合併症であり、アルコール依存症再発にも関連している。この試験研究は、アルコール依存症患者での不眠症の治療と依存症再発の阻止におけるガバペンチンとプラセボの効果を比較することを目的に行われた。</p> <p><b>方法：</b> 被験者を選別するため、1 から 2 週間のプラセボ導入および選別段階の期間に、完全な病歴、身体的診察、血液テスト、尿薬物テストならびに構造化面接を実施して研究参加への適格性とアルコール使用と睡眠のパターンを調べた。中毒、急性禁断状態、精神疾患、内科疾患、その他の睡眠障害による不眠症患者は除外した。その結果、アルコール依存症と不眠症の分類に適合し、アルコールの禁酒を望んでいる 21 人の被験者 (10 名の婦人を含む) が選ばれた。被験者は 6 週間の、プラセボ (11 名) あるいはガバペンチン (10 名) 処置群に無作為に振り分けられ、薬物処置は 10 日間かけて 1,500 mg あるいは 5 錠の就寝時投与用量まで漸増した。被験者は 4 日間の薬物漸減期間を経た処置終了後、6 週間の時点で再評価が行われた。</p> <p><b>結果：</b> ガバペンチンは多量飲酒の開始を有意に遅らせた。この効果は処置終了 6 週間後でも持続的していた。治療期間中、両方の処置グループで不眠症は改善された。しかし、ガバペンチンの睡眠に対する効果 (自己申告あるいは睡眠ポリグラフで測定) は対照あるいはガバペンチン処置群と差異はなかった。</p> <p><b>結論：</b> ガバペンチンは多量飲酒への欲求再発を抑制し、アルコール依存症治療で有効であると考えられる。ガバペンチンは短時間作用薬物で、本研究では就寝時に服用した。それゆえ、ガバペンチンの再発抑制作用は、本研究では測定していない生理的機序によって、夜間にもたらされているものと推測される。</p>	